

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「分かってうれしい、できてうれしい授業」

8月22日(月)、向能代小学校で開催された真夏の校内研修会「ユニバーサルデザインの視点による授業づくり」に話題提供者として参加しました。内容の一部を紹介します。

〈授業展開〉

○子どもの活動

★指導上の配慮点

No.1

段階	学習活動	ポイント
導入	<p>★時間通りに(チャイムで)授業を開始する。</p> <p>○全員参加で授業に取り組む</p> <p>1 参加スイッチをONにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあて、流れやゴールを視覚化して引き付ける。 ・本時の内容を焦点化して方向付ける。 <p>2 興味スイッチをONにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容や子どもの知っていることと結び付ける。 <p>3 やる気スイッチをONにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加できそうな発問でそろえる。 ・視覚刺激で「あっ面白そうだ!」と引き付ける。 ・クイズや運動で覚醒水準を上げる。 <p>★本時の学習内容と子どもを結び付ける。</p>	<p>□全員が参加できる内容を取り入れる。</p> <p>□1時間の流れが分かる板書を心掛ける。(聞き逃しがあっても板書を見れば指示が分かるようにする)</p>
展開	<p>○本時の流れに提示している内容で授業に取り組む</p> <p>1 授業構成を教科ごとにパターン化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを一定にして方向付ける。(見通しがもちやすく、子どもの気持ちや行動が安定する) ・1コマ10分~15分の学習内容を組み合わせ引き付ける。(よい気分転換になる) <p>2 多様な学習形態を用意する(全体、個人、グループ)</p> <p>(1) 個人で取り組む</p> <p>(2) ペア学習やグループ学習、全体で取り組む</p> <p>(3) (2)でお互いに学び合ったことを個人で取り組む</p> <p>★グループ学習は、ねらいを焦点化して方向付ける。(話合いの進行やポイントを書いたカードを準備する)</p> <p>★ペア学習は、落ち着きのない子どもに効果がある。</p> <p>3 多様な学習活動を組み合わせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくあるつまずき例を示す。(失敗することに不安のある子どもが安心して取り組める) ・静と動の活動のバランスを図る。(静的活動が長いと覚醒レベルが下がる。動的活動が長いと勝手な行動が増える) ・思考を促す発問や指示で考えるポイントを明確にして方向付ける。(子どもが戸惑わないように、何をするのか、何のためにするのかを明確に伝える) <p>★発問や指示は簡潔にし、具体物、イラスト、写真等の視覚情報を効果的に活用する。</p> <p>★非言語的指示(OKサイン、アイコンタクト、ヘルプカード)を活用する。</p>	<p>□子どもの実態や習熟度に合わせて学習形態を工夫する。</p> <p>□グループ学習は、全員が考える時間を確保する。</p> <p>□節目節目で1分間のペアトークを設けて学びをそろえる。</p> <p>□聞く時間を減らして考えたり、作業したりする時間を増やす。</p> <p>□肯定的な表現と語調(声の大きさ、抑揚、スピード・間)変化する付ける。</p>

段階	学習活動	ポイント
展開	<p>4 できる範囲で個々の違いに配慮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の内容や量を調整してそろえる。(ワークシートやヒントカード、チャレンジ問題等を用意する) ・ 書く量を調整してそろえる。(書字に時間のかかる子どもには、板書計画やワークシート、ICTを活用する) <p>★全員に共通する指導の工夫に加えて、個別の配慮を行い、思考過程をそろえる。</p> <p>5 机間指導で一人一人と触れ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートやプリント等を見ながら、子どもの考えや取組を全体に紹介して結び付ける。 ・ 課題が済んだ子どもへ次の学習を用意して方向付ける。 ・ 子ども同士が教え合う場を設定してそろえる。 <p>★授業の理解度を把握して、個々を認めて方向付ける。</p>	<p>□ 支援員とねらいを共有し、学習のつまずきに対応する。</p> <p>□ 机間指導は、時間・順番を決めて、個別の配慮をする子ども、一人で課題に取り組む子どもと、ローテーションをする。</p>
終末 まとめ	<p>○見通しをもって、振り返りや次の活動に向かって取り組む</p> <p>1 一時一作業を心掛ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つのことを同時に処理することが苦手な子どものために、聞くと書く作業を区別する。 <p>2 構造化された板書を心掛ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、今日のめあて→課題→練習→振り返り→まとめと板書する。(授業の流れに沿ったマークを使い、ノートにも対応する) ・ 重要な部分はチョークの色を変えたり、線で囲ったりする。(少ない量で大切な部分を強調する) <p>3 多感覚を活用してまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時で分かったことを「見て・聞いて・触って、考えて・声に出して」表現してできたへ結び付ける。 ・ 本時の学びを日常生活や次時への意欲と結び付ける。 <p>4 教師がよきモデルとなる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業はチャイムで終わってそろえる。 <p>★授業の始めに提示しためあてを基に、振り返りを行い、まとめにつなげる。</p>	<p>□ 大事なことを伝えるときは、聞くことに集中できるようにする。</p> <p>□ 一目で授業の流れが分かる板書とする。</p> <p>□ 本時で活用した様々な手掛かりを使って振り返る。</p> <p>□ 授業で使用したものを片付けたら休み時間に入る。</p>

ユニバーサルデザインの視点による授業づくりは、教科指導と特別支援教育の連続性であり、特別な教育的支援が必要な子どもだけでなく、全ての子どもにとって「分かってうれしい、できてうれしい」が実感できる授業を構築することです。一人一人の子どもの学び方に合った指導・支援を実現するために、全校共通の「授業スタンダード」を作成して、授業の質を高めてほしいと思います。授業の充実度は、子どもの表情や言動に表れます。



とれたて直送便



☆ある園での片付けの場面より

先生が「さあー、片付けを頑張っている人を探そう」と言った途端、片付けをしている子どもは更に張り切って続け、遊んでいた子どもは遊びを止めて片付けに参加しました。やっていない子どもを注意するよりも、頑張っている子どもを認める方がやる気スイッチがONに入りやすいです。また、片付けに参加できるようにするためには、「積み木は箱に入れて」と期待する姿を言葉にしたり役割を与えたりする、片付けの合図を決めておく、遊びが終わる前に片付けの予告をする、片付けの場所が分かるように写真やマークを貼る、夢中になっている遊びが次、いつできるかを伝える、少しでも参加したらほめることが有効です。